

スーパー業界の導入事例紹介

平成20年10月24日
財団法人流通システム開発センター

イオン①ー導入効果

経済産業省 平成20年度
流通システム標準化事業

(1) お取引先さまとイオンの共通メリット：

(直接効果) インフラ改革による、時間の削減、費用の削減。

①通信時間短縮 2時間 ⇒ 10分程度に短縮。

②通信費用削減 既存インターネット回線利用。

*データ量が多いお取引先さまの例：1回線当り月間通信費約10万円×N回線数。

(間接効果) 維持管理コストの低減、データ管理精度向上

*データ量が少ない取引先さまの例：手書伝票作成減少。データ管理精度が向上。

支払照合の差異が減少。

*この機にASNも流通BMSに統合。ご利用のお取引先さまには利便性が向上。

(2) お取引先さまのメリット：

(直接効果) ①システム標準化により、導入システム（パッケージ）が廉価となる。

初期投資の抑制。（JCA端末導入時と比較 ⇒ 約40～50%減）

(間接効果) ①通信時間短縮による納品リードタイムの改善。

②業務プロセス改善による手作業処理の業務コスト削減。

（決済照合精度の向上）（発注情報と出荷情報の一本化）など。

(3) イオンのメリット：

(直接効果) ①業務コストの削減

・手書伝票減。伝票入力コスト減。

②ペーパーレス、照合作業軽減。

・取引先への発送処理コスト、照合コスト。

(間接効果)

*今後、イオングループ標準として、グループ会社個別のEDIシステムを統一していく。

イオン②ー拡大スケジュール案

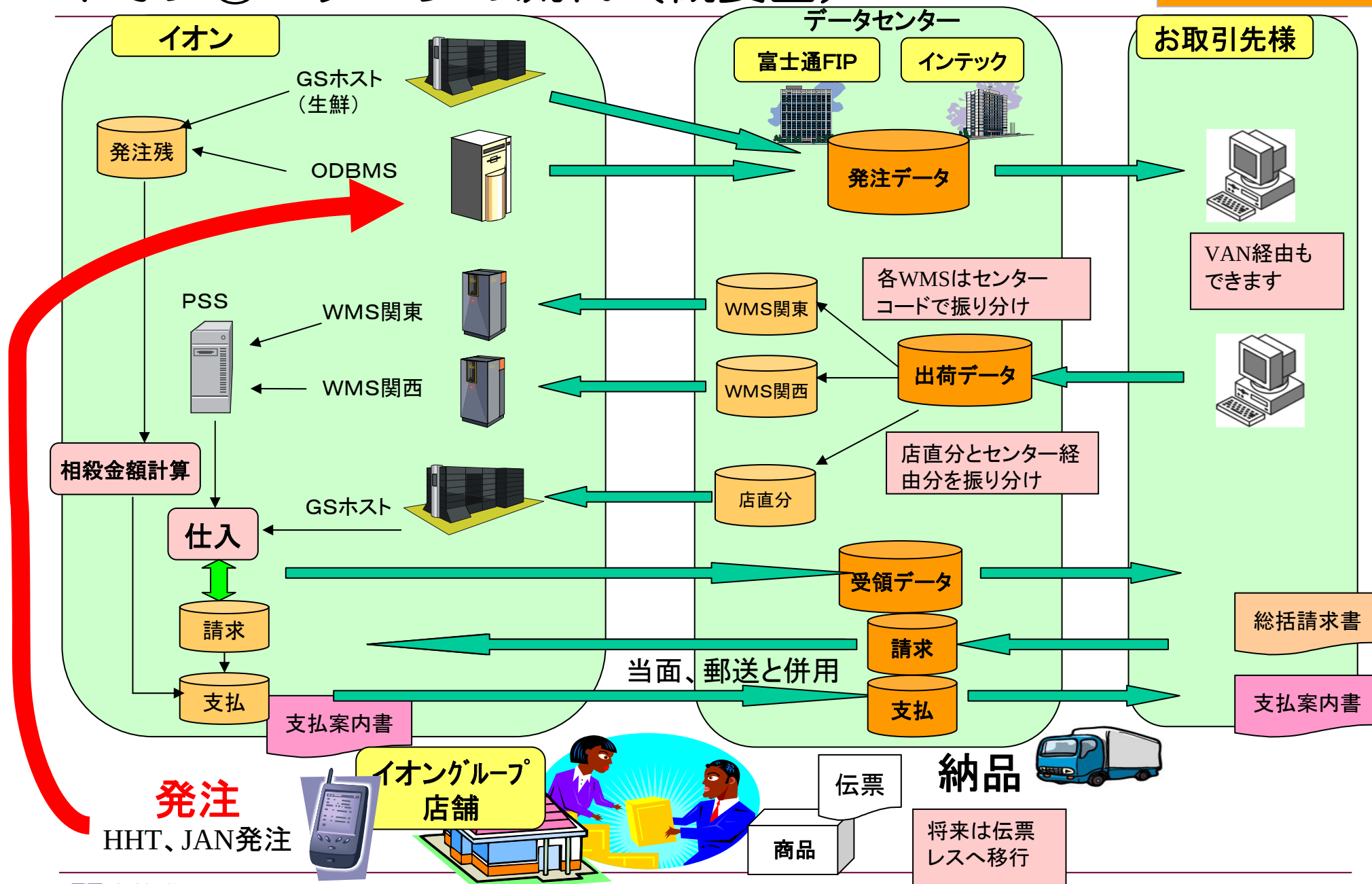
経済産業省 平成20年度
流通システム標準化事業

- ・2008年度は新規お取引先様とJETからの切替ご希望のお取引先様とに導入。
- ・平行して大量入替え時の推進体制としくみを整備。

	2008/ 6月	7月	8月		2009年度	2010年度	2011 年度
流通BMS	JET未加入お取引先様への導入				JET取引先への導入		
	共同実証	取引先説明会 7月イオン北海道 8月イオン九州		取引先説明会 11月	取引先説明会		
	新規や希望取引先は随時受付け						
予想企業数	計 30			300	1000	2000	3000
イベント、 移行ステップ			体制整備 開発			導入目標	

イオン北海道導入説明会資料より

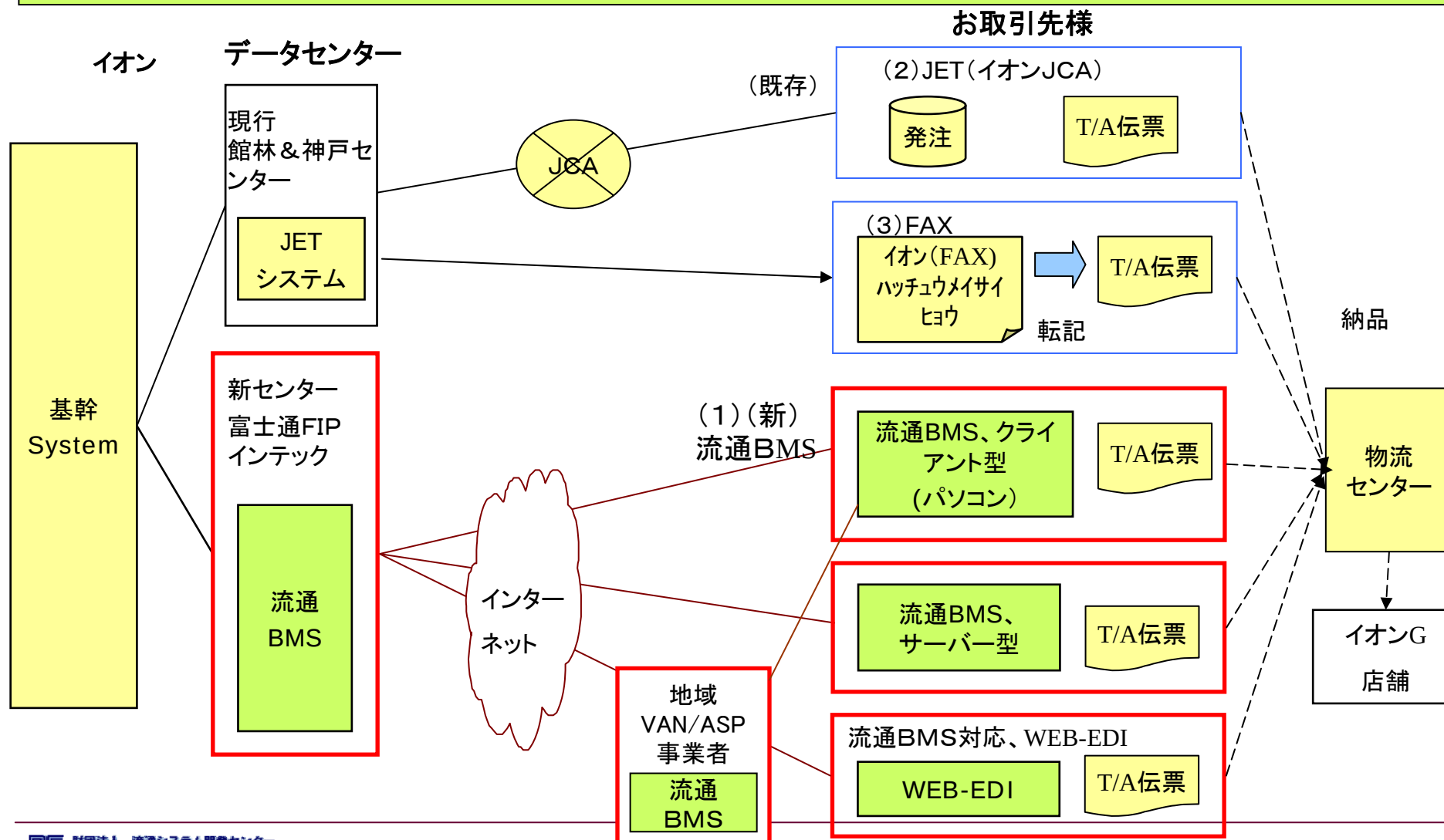
イオン③ーデータの流れ（概要図）



イオン④ーEDIシステムへの移行方式

経済産業省 平成20年度
流通システム標準化事業

お取引先様には、(1)(新)流通BMSのクライアント型、サーバー型、地域VAN事業者のWEB-EDI、
(2)(現行)JCA、(3)FAX、から選択頂きます。(2)(3)は、システム移行や準備期間の対応にも使用します。
生鮮の標準は暫定版になっておりますので、バージョンアップを前提に流通BMSを導入するか、弊社JETを併載してい
るパッケージをご検討下さい。



イオン⑤ー移行方式について

経済産業省 平成20年度
流通システム標準化事業

移行方式	(1)流通BMS／クライアント型	／サーバー型	／WEB-EDI	(2)JET(イオンJCA)	(3)FAX
概要説明	インターネットにつながるパソコンがあれば動く、サーバシステム導入企業と接続、PULL型通信。 通信と業務ソフトのパッケージ紹介 ①通信ソフトと業務システム(発注－出荷－受領－請求－支払等)、自社連携も可 ②通信ソフトで自社システム連携型	サーバー間で双方でPUSH型(送りつけ)の通信。規模拡大が可能、グローバルIPアドレスが必要。 通信ソフトで自社システム連携型	地域VAN/ASP事業者が運営する、流通BMS対応版	マイカル社との大きな違い 9行→6行伝票 主要データ種は発注と受領。支払は申請により送信。(紙の郵送あり)流通BMSへは準備のできたお取引先様より順次切替の方向。	「イオン(FAX)ハッチュウメイサイヨウ」よりT/A伝票に転記して納品
通信プロトコル	JX手順(旧SOAP-RPC)	eb-XML MSとAS2がある	HTTP	JCA	
コスト、参考製品等	流通BMS、各社製品。15～60万円位。接続料(登録&テスト)、保守料等	富士通FIP、インテック、チェルトで用意	JCA導入コストより安価 ※移行方式は(1)～(3)から選択。対応はお取引先様側での開発か、参考製品よりご検討下さい		1伝票あたり35円
	VJC CONTACT ①通信&業務パッケージ、JETも可 既存ユーザー様は、一部追加もしくはバージョンアップにて対応。				
	チェルト Linkstar及びSuper V ①通信&業務パッケージ、JETも可				
	富士通FIP iTERAN_AE ①通信&業務パッケージ				
	インテック eB-forBMS ②通信&マスタ管理パッケージ				
	HBA Hi-PARKS 導入費用3万円～ 月額費用5千円～		流通BMS対応ASPサービス		
地域VAN/ASP事業者。地域密着型導入支援。クライアントソフト提供方式でのASP運用					

イオン⑥ーお取引先様にお願いする事項

説明会7月上旬

移行検討
商談&導入準備

導入申込書送付

データセンター接続テスト
(第1ステップ)

(お取引先様により数週間～数ヵ月)

導入申請

詳細設定申請

イオンとの通信テスト
(第2ステップ) (数週間～数ヶ月)

本番切替

稼動後

- 説明をきいて、移行方式をご検討下さい。
 - EDI製品の詳細説明は、SIベンダーの営業までご連絡下さい。
 - ソフトのご購入につきましては、SIベンダーと直接のお取引となります。
 - SIベンダーと詳細打合せと準備。接続や社内システム連携のご希望等をご相談下さい。
- 導入を決めたら「流通ビジネスメッセージ標準導入申込書」にご記入の上、イオン東京センターまでご送付下さい。
 - 流通BMS対応のWEB-EDIを利用される場合は、導入申込書の「4）、その他特記事項」に「WEB-EDI利用」とご記入下さい。
 - 流通BMSはイオン東京センターから、申込書の希望ASP事業者〔データセンター運用〕へご連絡します。
 - JET、FAXのお問い合わせも、東京センターが窓口で進めます。
- 稼動までの導入準備
 - 通信ソフトの接続テスト。 お取引先様⇄データセンター
- 第1ステップが完了しましたら、「流通ビジネスメッセージ標準申請書」を、イオン東京センターまでご提出下さい。
- SIベンダーより通信に関する詳細設定フォームが送付されます。ご記入の上、ご返信下さい。
- 通信テスト、テスト検証
 - イオンとの接続テスト。 お取引先様⇄データセンター⇄イオン
 - テストフラグ付のデータ連携の並行運用期間です、検証をお願いします。
- 本番切替
 - 本番開始日の発注より、切り替わります。
- 稼動後
 - 標準のバージョンアップ等はSIベンダーからの連絡により、行います。大幅な機能拡充があった場合、別途費用が発生することがありますので、予めご了承下さい。

イズミヤ①ー導入の狙い（通信時間短縮）

経済産業省 平成20年度
流通システム標準化事業

受発注オンライン状況 (IDC利用のASP社数) * 弊社マスター登録数	IDC	A社	その他+直接続
	取引先社数	850社	116社
	接続拠点数	2015社	293社

A社経由の接続状況 * 730社実績より	接続手順	JCA手順	TCP/IP	WEB-EDI+その他
	取引社数	440社	40社	250社
	比率	60%	6%	34%

受信時間数	受信時間数	1時間以上	59分～30分	29分～10分	9分以下
	取引社数	2社	6社	54社	***
	接続手順	JCA手順			TCPIP/JCA手順

1分～6分以内で受信完了

通信時間が削減される事でお取引先様の出荷業務が軽減できる

イズミヤ②ー導入の狙い（伝票レス）

●小売 カテゴリ別導入効果(4社平均)

【グロサリー】

手書き伝票	178,033枚/月
システム発注分	1,419,294枚/月
伝票レス伝票	1,172,965枚/月
伝票レス比率	73.3%

【生鮮】

手書き伝票	532,091枚/月
システム発注分	1,765,319枚/月
伝票レス伝票	1,643,574枚/月
伝票レス比率	63.8%

【アパレル】

手書き伝票	90,306枚/月
システム発注分	1,466,571枚/月
伝票レス伝票	1,075,253枚/月
伝票レス比率	72.9%

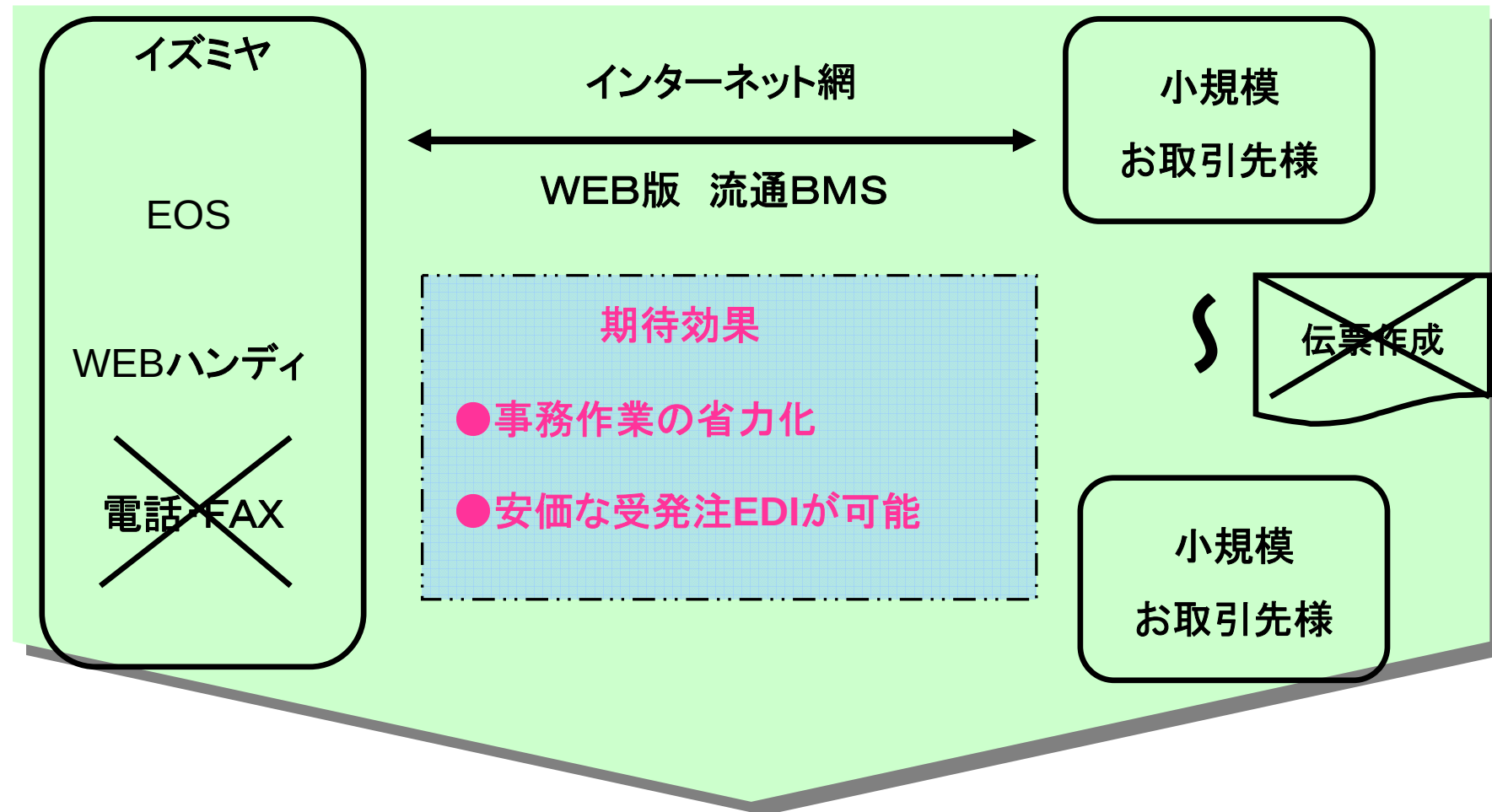
小売メリット ⇒ 処理費用(*）、運搬、保管のコスト削減

卸メリット ⇒ 伝票代、処理費用(*）、伝票印字、ハード
プログラム開発のコスト削減

* 処理費用とは、パンチ代やその他人件費、伝票の関わる費用

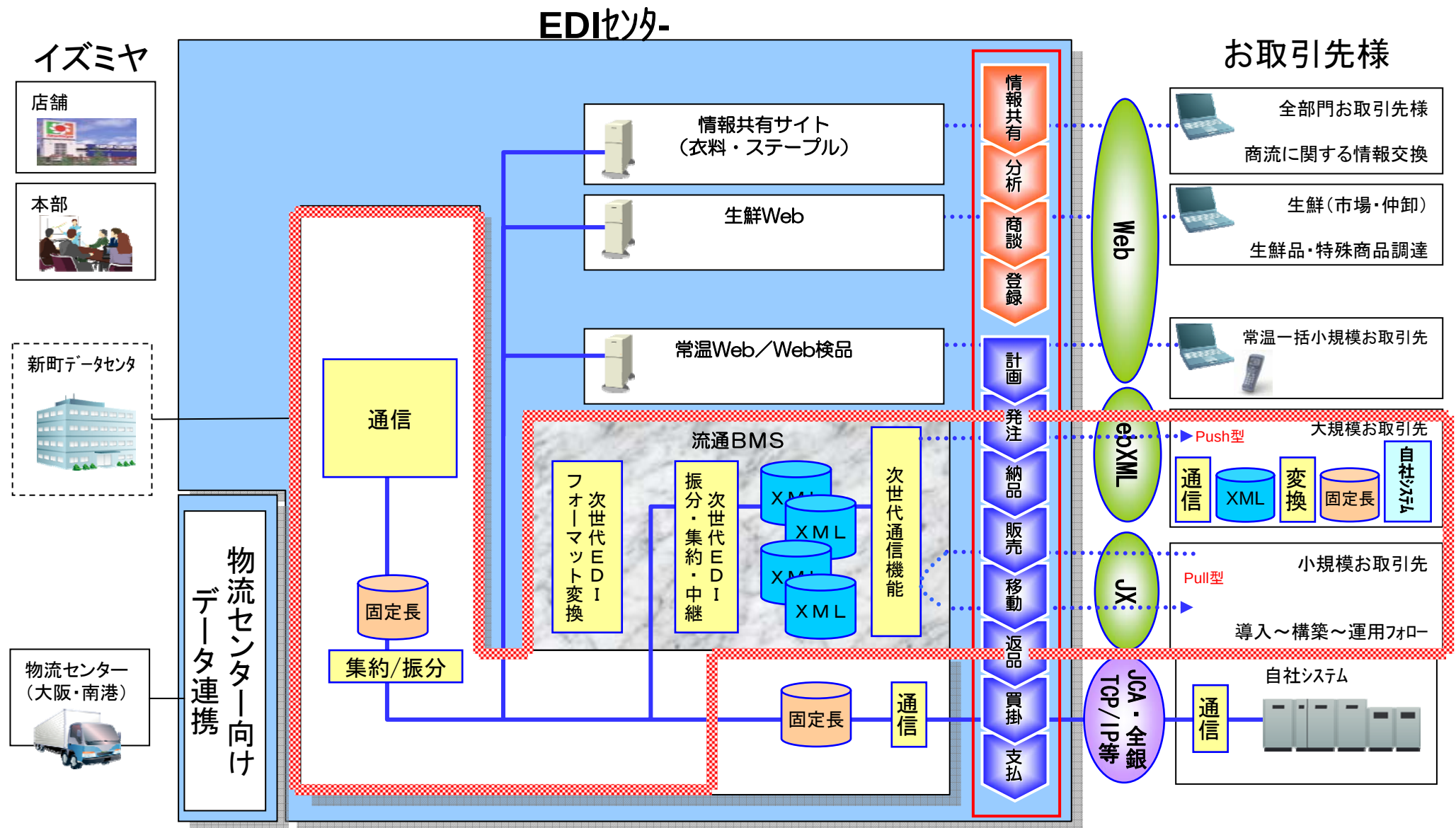
イズミヤ③ー導入の狙い（中小企業への拡大）

経済産業省 平成20年度
流通システム標準化事業



業務プロセスの統一・事務経費の削減・検品精度の向上

イズミヤ④ー今回のシステム概要



イズミヤ⑤ー2008年度のシステム概要

経済産業省 平成20年度
流通システム標準化事業

今年度 生鮮部門に取組み予定

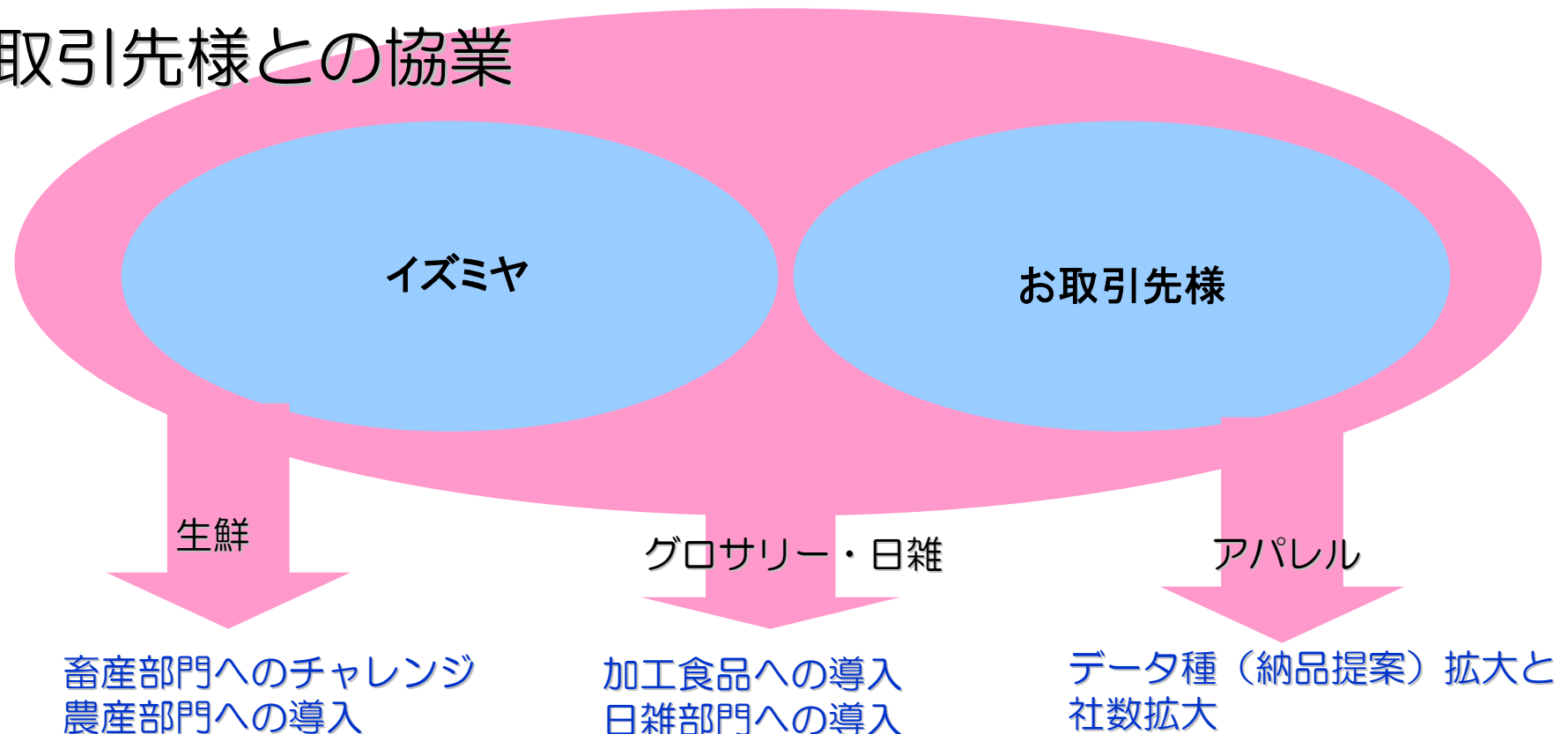


	衣料・住関 加工食品	生鮮	社数(法人別)	対象比率
EDIセンターA	昨年度対応済	本年度対応予定	834	88%
EDIセンターB	未対応	未対応	111	12%

イズミヤとオンライン取引を実施して頂いている
お取引先様、約88%のカバーが可能

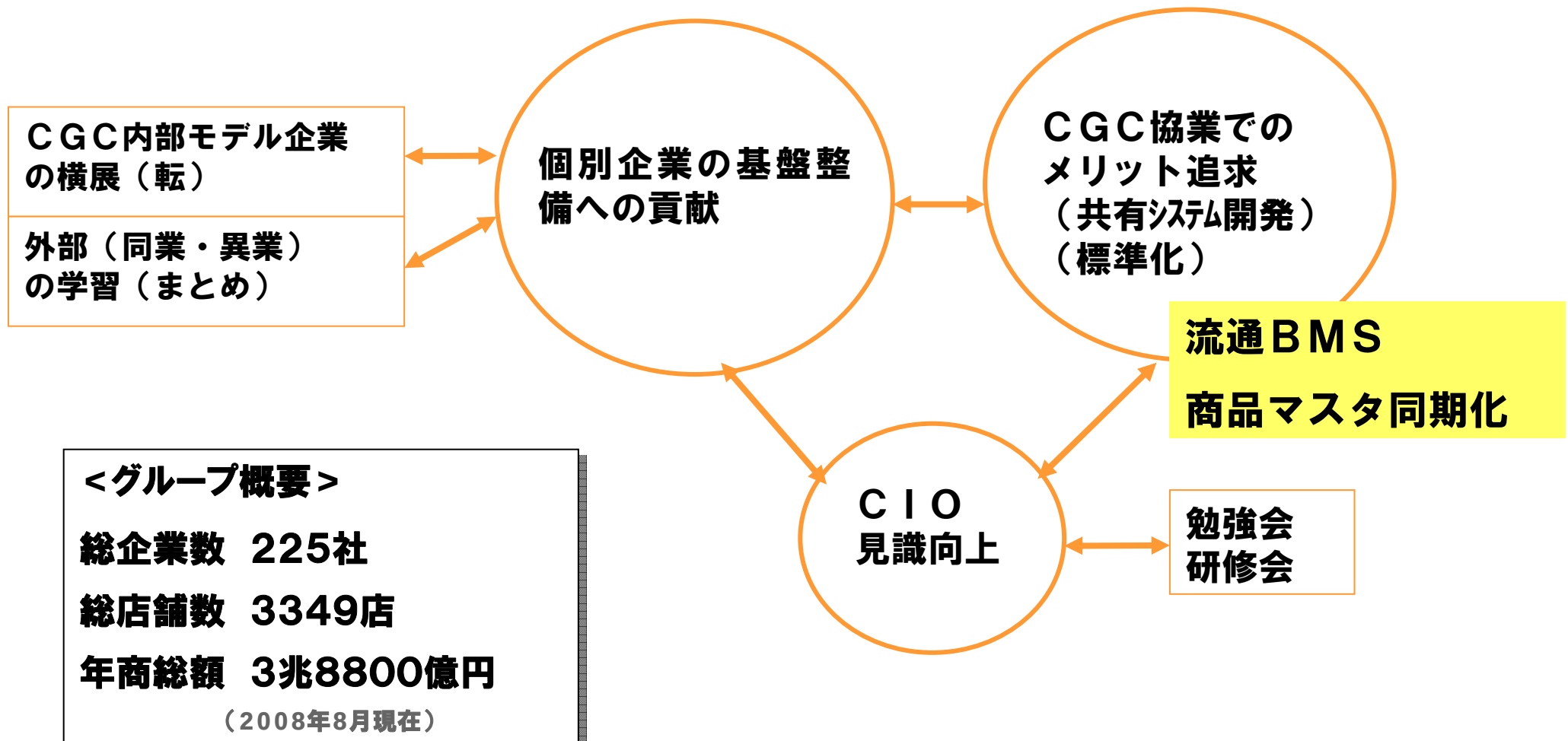
イズミヤ⑥ー今後の取組み予定

お取引先様との協業



相互にメリットを享受し協業強化へ

～1社で実現できないことを協業で実現する
《情報システム戦略委員会を中心に政策を提言》



CGCが目指す業務効率

取引先様が望む業務効率

両社のメリットを相互に享受し取組みを強化

流通業界で標準化された仕組みを利用することが不可欠

「流通ビジネスメッセージ標準」を基盤に実現へ

データ交換の高速化

通信は現状の70倍以上のスピード！

変化に柔軟

取引の変化による、EDIデータ項目追加・変更に強いXMLを採用

コストメリット

業界標準なので個別開発が不要

高速化

**Internet
環境**

・公衆回線を使った通信
の70倍以上

柔軟化

**XML
技術**

・生産履歴情報などの
新たな情報を、今後
付加する場合も簡単
にできる

ローコスト化

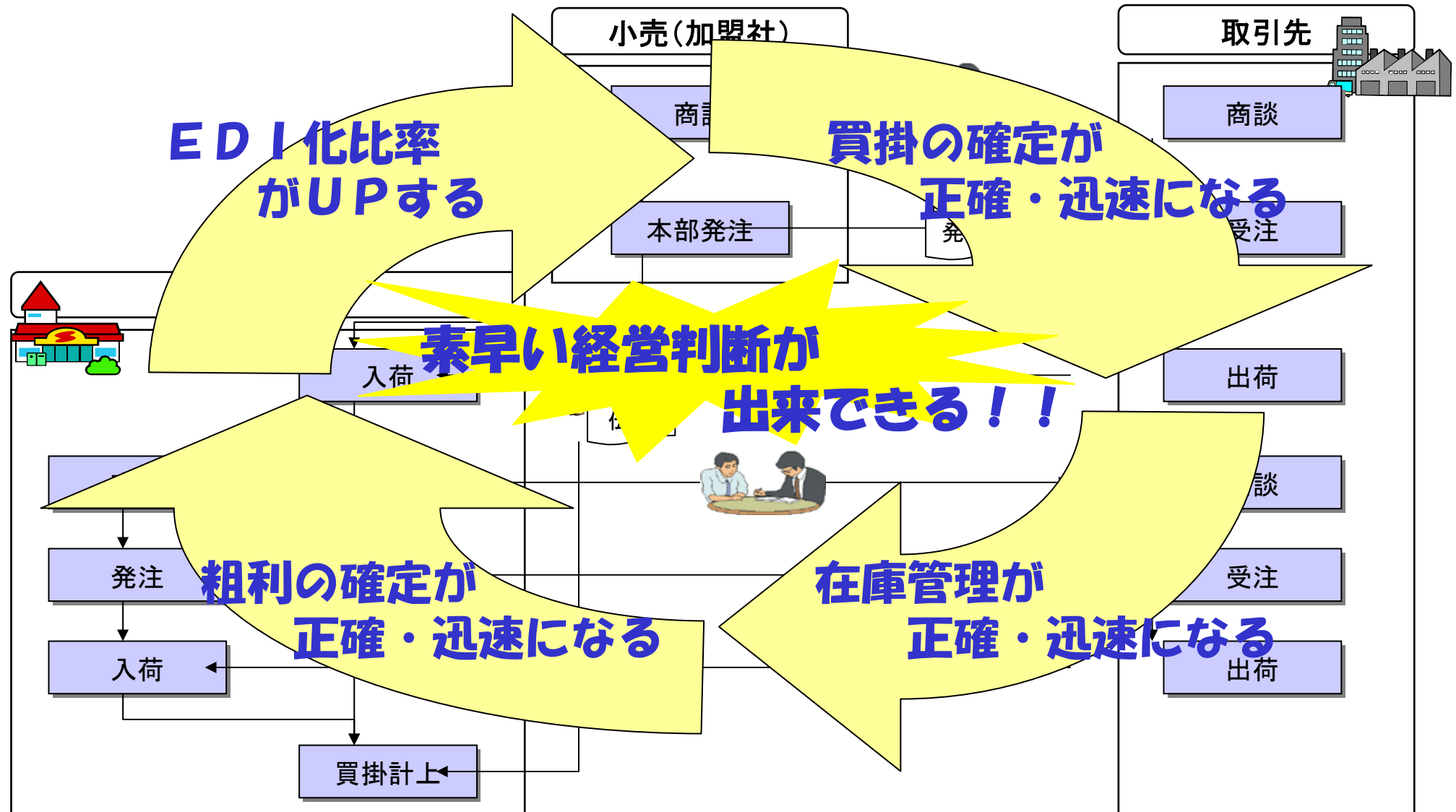
**比べて
下さい**

・通信回線コスト削減
・照合など業務コスト
削減

C G C③一流通BMSの狙い～現状業務の底上げ

経済産業省 平成20年度
流通システム標準化事業

◆手書仕入伝票は業務効率化及びデータ精度向上の妨げになっている



・・・現行でできていることをそのまま置き換えても意味がない!!

①スピード経営のためのインフラ

一月次決算 ⇒ 週次決算へ 移行

②商品管理を細分化するためのインフラ

一売上、仕入、在庫、荒利の管理レベルを デパート⇒ライン⇒クラス⇒単品 への移行

③業務を標準化して、伝票レス（電子化）などの業務の刷新

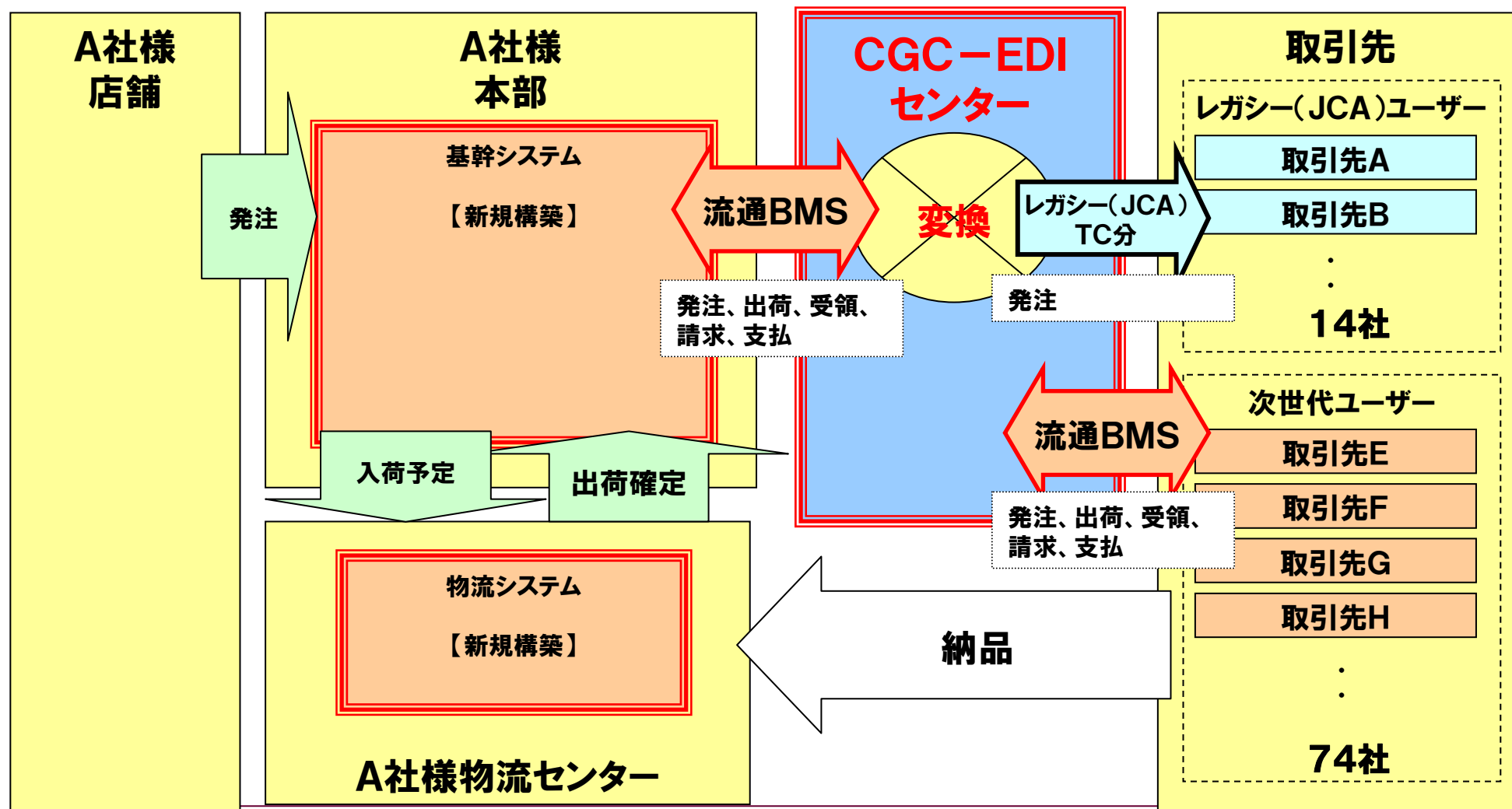
－M&Aや事業統合 などの変化に耐えられる基盤整備

④産地表示等の法制度への対応（トレーサビリティ）

CGC⑤—流通BMSの導入事例

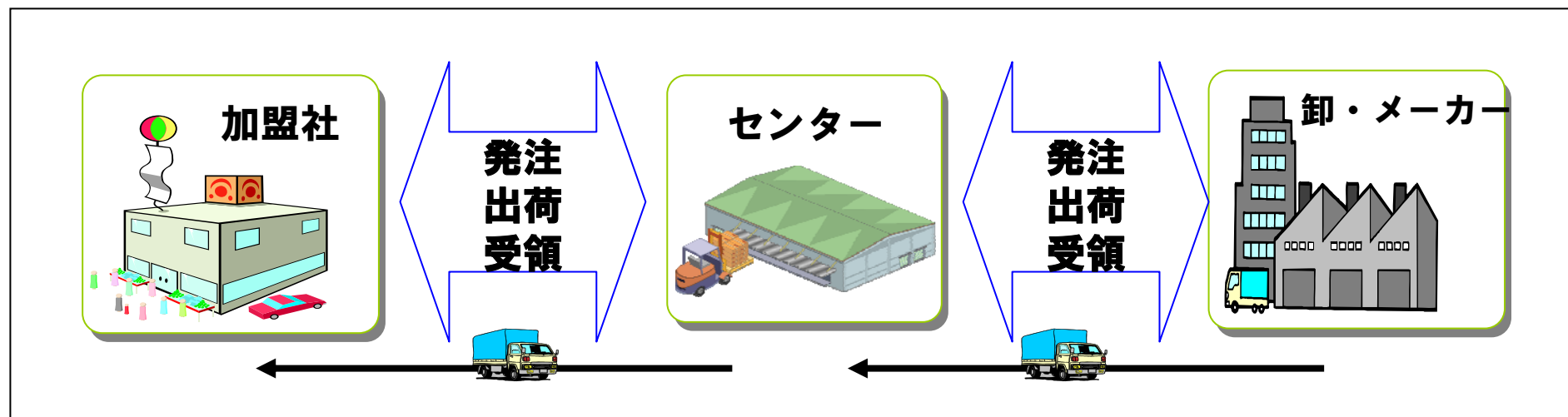
経済産業省 平成20年度
流通システム標準化事業

- ・A社様ではJCA手順を完全廃止し、JCAへの変換を実施。
- ・平成19年10月22日(月)発注より、日配取引先から順次切替スタート、11月1日正式スタート



<A社における効果>

- ・伝票レス／月間40万枚の完全ペーパーレス化実現とコスト削減
(約160万円／月削減)
- ・陳列情報を付加することで店舗別陳列順に各店配送。
陳列作業の効率アップを実現
- ・通信時間の削減により発注締め時間の延長
- ・ASN(出荷梱包)とSCMラベルとの連動で大幅な検収作業
時間の効率化アップを実現



CGC⑦ー参考：導入方式概要

経済産業省 平成20年度
流通システム標準化事業

	方式1 「流通BMS」対応 通信＋業務 パッケージ導入	方式2 「流通BMS」対応 通信クライアント導入	方式4 指定のASP業者による (SBS－EDIセンターもサービスご提供)変 換サービスを利用
		方式3 流通BMS対応通信サーバ ハード・ソフト導入	
対象の取引先	取引量、扱いSKU⇒小 基幹システムを持たない、 又は、連携の必要がない	取引量、扱いSKU ⇒小～大 自社基幹システムと連携	取引量、扱いSKU⇒大 マテハン連携も含めた 自社基幹システムと連携
システムの概要	通信手順 JX手順(SOAP－RPC) データ表現 XMLスキーマV1.0	通信手順 方式2:JX手順(SOAP－RPC) 方式3:ebXML(ebMS) データ表現 XMLスキーマV1.0	通信手順 お取引先様指定の手順 データ表現 お取引先様指定の形式
システムの特徴	通信及び業務(作業帳票出力、 確定入力)についてパッケージ を使用(購入)します	方式2:通信パッケージのみ 使用(購入)します 方式3:複数接続をする場合の通信 サーバ製品とH/W、S/Wの 一体で導入します	お取引先様基幹システム と指定ASP業者と連携します 仕様は個別検討いたします
取引先準備 (システム変更 ・開発・準備)	インターネット接続環境の 整備及びソフト導入費用が発 生	インターネット接続環境の整備及びソフト 導入費用が発生。また標準メッセ ージの各項目と基幹システムとの連携(開発)が必要	標準メッセージの各項目と 基幹システムとの比較検討が必要

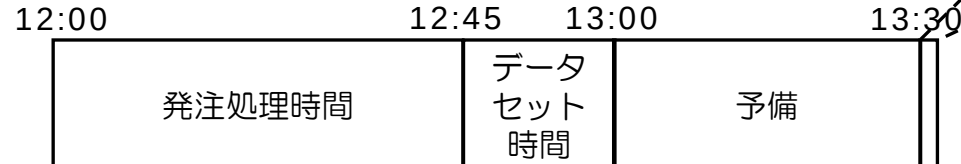
ユニ①ー通信時間の削減

物流業務開始時刻早期化

1.従前は発注締めから、取引先受信完了までの時間がかかり過ぎた

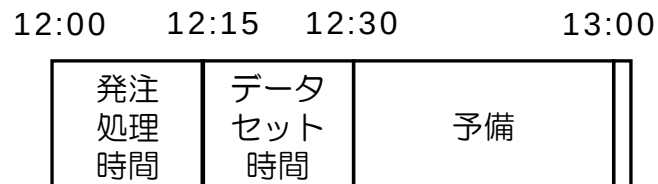


2.流通BMS使用で回線通信時間が大幅に削減



通信時間が
30分 ⇒ 40秒に!!
(6500件、伝票1500枚
JCA ⇒ 750KB
流通BMS ⇒ 9MB)

3.自社システムの改善で更なる時間短縮<08年2月>

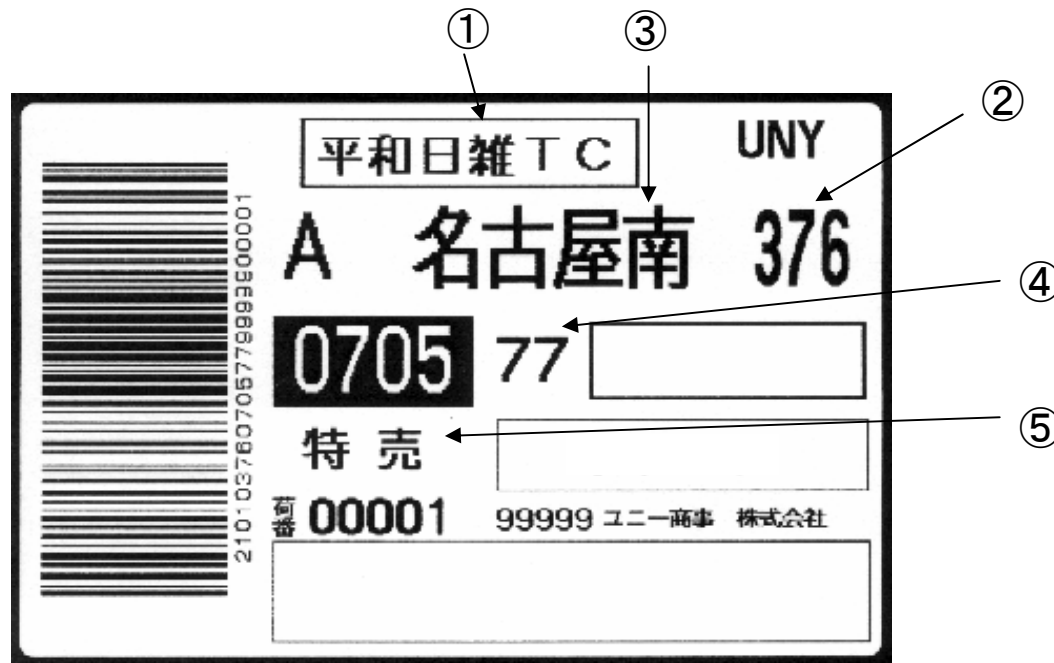


ようやく世間並みの
処理時間が実現

卸様の
・メーカー発注業務
・出荷業務
に寄与

ユニ②ー②ー流通BMSと物流ラベル

漢字データ活用



	印字項目	桁数	備考
①	納品センター略称	6	平和日雑TC
②	店舗コード	4	別冊「ユニ-株式会社物流センター各種一覧表(SCMラベル印字用店舗名称一覧)」参照
③	店舗名称	6	別冊「ユニ-株式会社物流センター各種一覧表(納品カテゴリー一覧)」参照
④	カテゴリコード	2	
⑤	カテゴリ名称	2	



	印字項目	桁数	備考
①	納品センター略称	6	「直接納品先名称」
②	店舗コード	4	「最終納品先コード」
③	店舗名称	6	「最終納品先名称」
④	カテゴリコード	2	「陳列場所コード」下2桁
⑤	カテゴリ名称	2	「陳列場所名称」

メッセージ上に漢字名称が
セットできることで、
取引先 ⇒ マスター管理の手間
減
小売 ⇒ 名称変更が容易、
新店の徹底

ユニ③一個別仕様の見直し

経済産業省 平成20年度
流通システム標準化事業

導入前

番号	項目名	プリント位置、方法	桁数	Ver0.5番号	名寄せ後項目名	TAG-NO	TAG名	
1	地区	D欄の上段	10	66	商品分類(中)	212	地区	2:東京 3:静岡 4:北陸 5:中京 (カタカナも可)

ユニ個別項目を使った
ユニ個別仕様をお願いしていた

導入後

番号	項目名	プリント位置、方法	桁数	Ver0.5番号	名寄せ後項目名	TAG-NO	TAG名	
1	地区	D欄の上段 ⇒項目に値がセットされていますが、 標準化遵守ため印字は不要です。	10	66	商品分類(中) ※上記より判定しプリント	212	地区	2:東京 3:静岡 4:北陸 5:中京 (カタカナも可)

個別項目がなくなったので
社内ルールを見直し、個別仕様も廃止

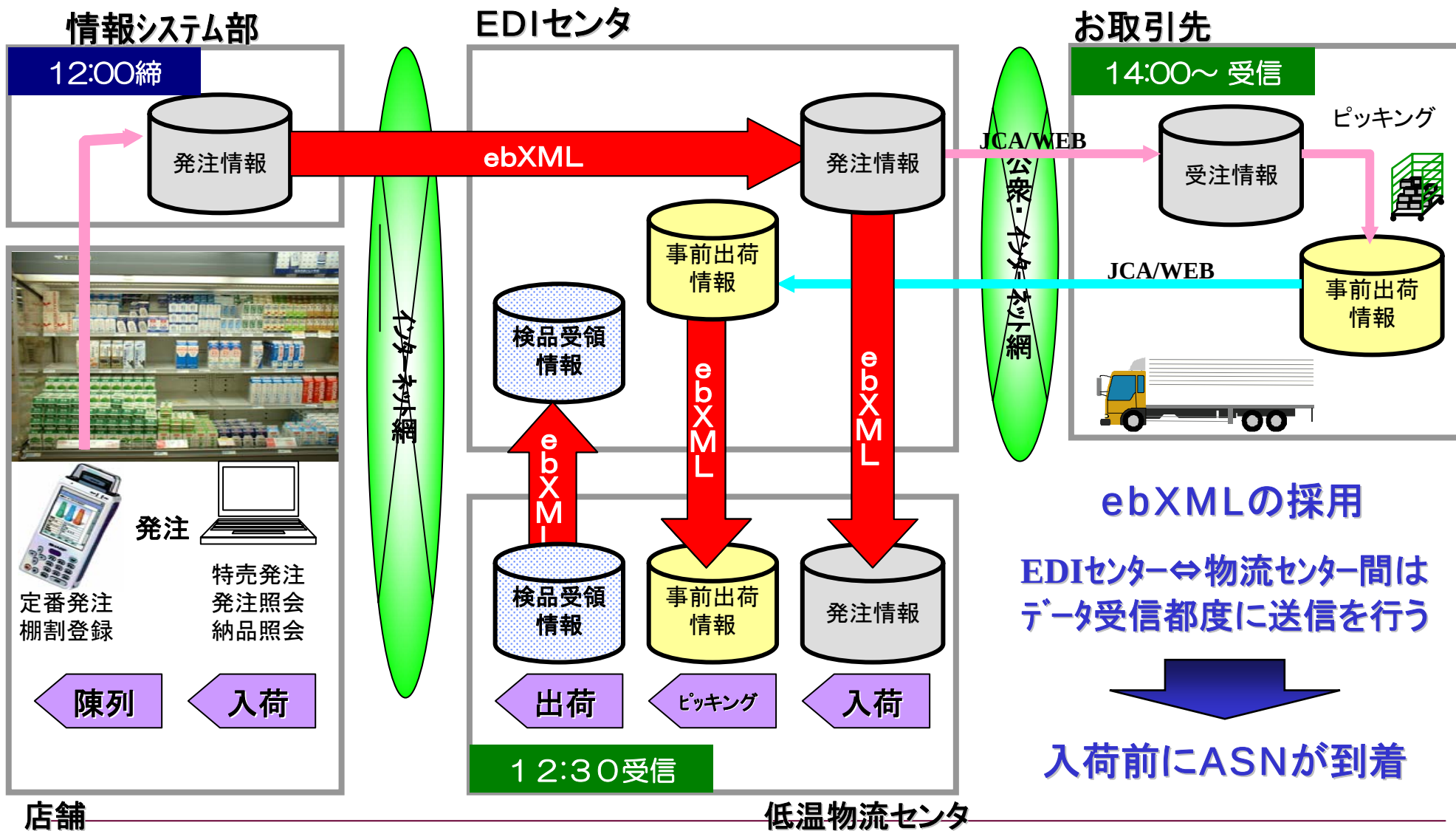
その他、アパレルの値札メッセージも新規開発予定<08年2月>(従来は発注データと兼用)

業界標準を遵守することにより、お取引先に負担をかけない

ユニ④ー低温物流センター構築事例

経済産業省 平成20年度
流通システム標準化事業

時間的にタイトな日配受発注をタイムリーに処理出来るEDI環境の実現



2005年

発注から納品までタイトな日配商品でも 事前出荷情報を前提とした低温物流センターの実現

1. 事前出荷情報(ASN)処理 → 伝票レス
2. クリーンデータを即時に物流センターへ
3. 自前のシステムがなくても、EDI化を実現

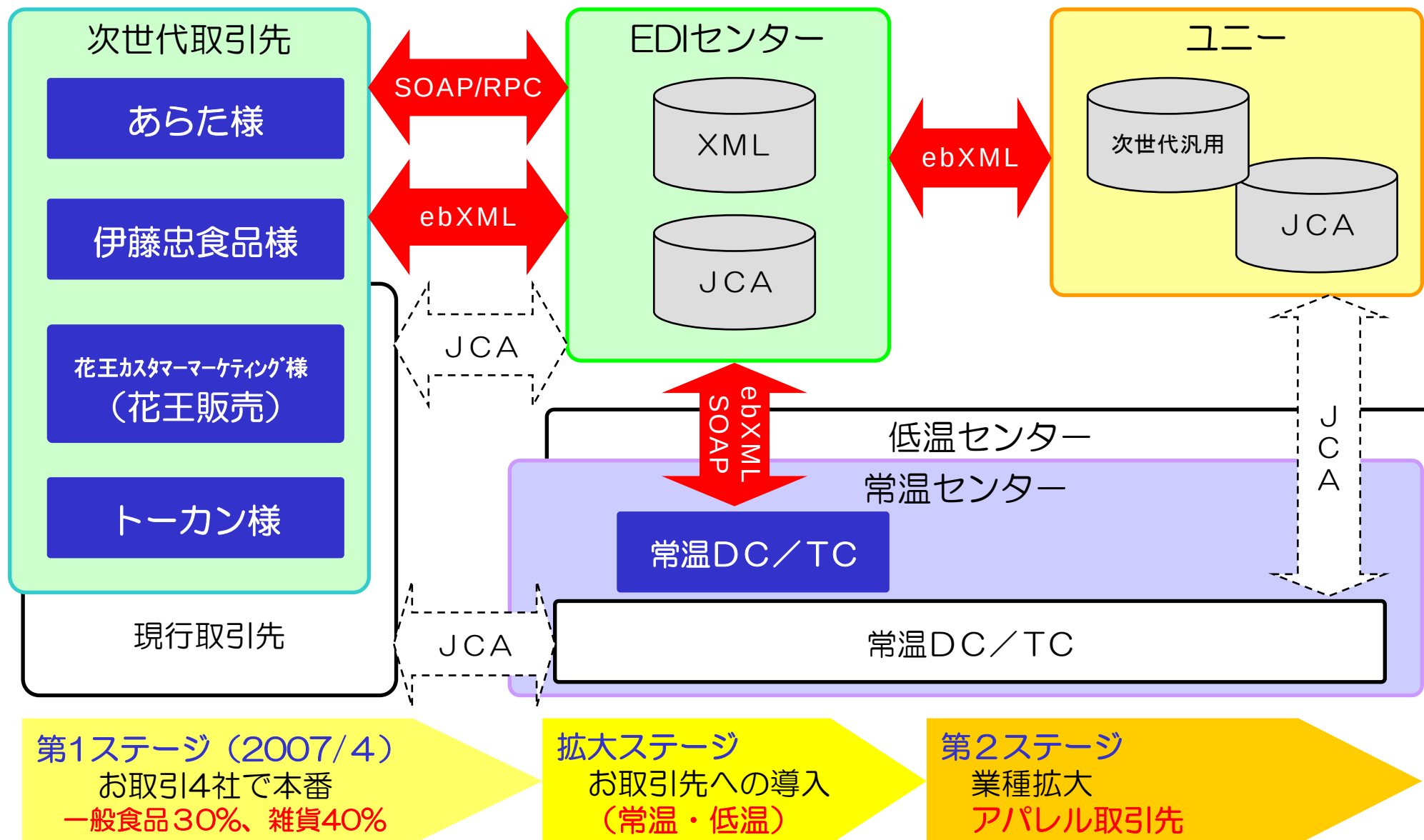
物流コスト削減
事務コスト削減
伝票コスト削減

1. JCAに加えて、Web-EDI開発
2. 漢字データをEDIセンタへ送信
3. 高速・大容量通信 → 次世代通信手順

独自フォーマット
開発コスト増大
テストコスト増大
維持コスト増大

ユニー⑥—流通BMS展開計画

経済産業省 平成20年度
流通システム標準化事業



ご清聴ありがとうございました



流通システム標準化事業のホームページでも流通BMSの導入事例がご覧になれます。

流通BMS News過去の紹介事例

- 第1号(3/17): イオン、ユニー
- 第2号(3/27): ダイエー、平和堂
- 第3号(4/7): 伊藤忠食品、花王カスタマーマーケ
ティング、パルタック、
菱食
- 第4号(4/25): CGCグループ
- 第5号(5/26): 西鉄ストア
- 第6号(6/26): ワコール
- 第7号(7/29): 成城石井
- 第8号(8/28): 近商ストア、イズミヤ
- 第9号(10/3): CGCの共配センター
取引先の事例

流通BMS News
2008. 8. 29 No.8

目次

- 近商ストアの流通 BMS 導入状況・・・・・・・・・・・・・ 1
- イズミヤの流通 BMS 導入状況・・・・・・・・・・・・・ 5
- 解説：預り在庫型センターとは・・・・・・・・・・・・・ 7

流通 BMS 導入で先陣を切った小売4社（イオン、ダイエー、平和堂、ユニー）に続くのは、平成 19 年度の共同実証に参加した CGC、近商ストア、イズミヤです。3社のうち、CGC グループについては本誌第4号で「CGCグループの流通 BMS 対応戦略」として紹介しましたので、本号では関西本拠の2社（近商ストア、イズミヤ）の最新動向をご紹介します。

近商ストアの流通 BMS 導入状況
～ 年内には導入企業が数十社に ～

(株)近商ストアは近畿日本鉄道（近鉄）グループに属する総合スーパーチェーンです。日本の私鉄の中で最長の営業路線を誇る近鉄沿線（大阪、奈良、京都）を中心に、総合スーパーや食品ス